

2 改めて、「教育」というものをどう捉えたらよいのか?!

堂本 彰夫

(1) 「教育」は無力か? そうとも言えるし、そうでないとも言える?! 昨今の、悩ましい状況に想う?!

先号(1)では、H教育大学の附属小学校の動きと、それに関わるCS・地域学校協働活動という流れをどう受け止めればよいのか?そして、そこから、そもそも、「学校」というものの存在をどう考えればよいのか?そこに、かの「生涯教育(学習)」の理念を、どう具現化すればよいのか?さらには、そこにおける、これまで提唱してきた「教育協働」に向けたプロモーション/プロモーターの意義・必要性等について論じたつもりである?!最後のプロモーション/プロモーターについては、少々我田引水的是であったが、それがなければ、事態は、なかなか進展しないし、多くの人のチャレンジや苦勞?も、ほとんど報われないものとなるのではないか(頑張っている人達には大変申し訳ないし、失礼でもあるが、少なくとも今の私には、そのように思えるのである?)?!

ということで、今更ここで言うのも、かなり面映ゆくはあるが、我々の人間社会には、どんな形にしろ、「教育」という営みがあり、それへの「絶対的な信頼と揺るぎない信念」が存在している!そして、その「信頼」と「信念」は、洋の東西を問わず、その時代時代にあって、そこに生きて幾多の先人達がつくりあげてきた財産でもある(はずである?ただし、私は、そのごくごく一部のことしか、直接は知らないわけだが?)!だが、今、その「教育」への「絶対的な信頼と揺るぎない信念」に、かなりの揺さぶり、否、ひび割れが生じているようにも思われる?!

と言うのも、最近の世界情勢、とりわけ、某国の、その隣国への武力侵攻(侵略?)のことが頭から離れないわけであるが(何で、そこまでやるのか?出来るのか?)、特に、ここでの文脈からすれば、そこで頻りに耳にする「プロパガンダ(主義・思想の政治的喧伝)」とか、「フェイク(嘘・捏造)」とかという言葉(現象)が、大いに気になるところなのである!すなわち、そこには、「教育」ということと、ある部分ではリンクしている?「インドクトリネーション(教化)」とか、あるいは「マインドコントロール」「ミスリード」のような要素(目的)があり(「教育」という営みは、現実態としては、往々にして、それらを内包している?)、それが、他国(者)への武力侵攻(侵略)の大義名分づくりと、分かれ難く結びついているからである(事実、当国では、そのことを支持するという人が飛躍的に増大している!また、直接的な教育プログラムも、学校に導入されているようである?)!

しかるに、有史以来、様々な経験や情報を共有しているはずの、この人間社会、この21世紀にあって(もちろん、戦争を始めとする幾多の痛みや困難を経て!)、そんな、人間(人類)の大切な知や思いを愚弄するプロパガンダやフェイク等が通用するなんて、あり得るのであろうか?!それほど人間(人類)は、無知で、愚かなのであろうか?そんな思いを巡らすことが多くなっている私であるが(そんなことしかしていない、否、出来ない自分自身が、歯痒くて、情けなくもあるが!)、一方では、そこには、まさしく「教育」がもっている力、もっと突っ込んで言えば、伝えよう、やりようによっては、悪や不正にも、一様に導いていくことのできる「怖さ(負の力)」があることを、まざまざと見せつけられてもいるわけである?!

ただし、このことは、冷静に捉えれば、何も最近ばかりの話ではなく、言うなれば、有史以来絶えず続けられてきたものであるとも言え、実際には、そのことの方が、より多くの現実をつくりあげてきたとも言えるであろう(戦争や差別、人権侵害等は、ある意味常にある?)?!であれば、標記したように、「教育」は無力か?そうとも言えるし、そうでないとも言える?!ならば、どうすればよいのか?あるいは、そうであったなら、諦めるのか?ということにもなるが、ここでは、改めて、私なりの想いを述べておきたいと思う次第である!だが、この任を、こんな私(今は何もしていない?何もできない?)が担ってよいのかという、自問(愚問?)へのジレンマ(恥ずかしさ?)が少なからずあることは、明確に名状しておきたい!

(2) 「教え育てること」は、絶対に必要!だが、「落とし穴?」もある?!そのことを忘れてはいけぬ?!

さて、今回、そういうこともあって、昔覚えていた?、「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という、「ユネスコ憲章(前文)」を取り出してみた(情けない話であるが、当初、何の前文なのかを失念していた私である!)!まさに、その通りであろう!これが、この人間社会、この21(←20)世紀の大きな経験でもあり、教訓でもあるはずである!ただ、それは、あくまでも、かの第2次世界大戦直後の話である!あれから、何年が過ぎているのであろうか?それがまた(まだ?)、今現在にも通用しているのである!「人の心と一体の」教育の営み?!この間、人間社会は、何をやってきたのか?その教育の力(成果)とは、一体、何だったのであろうか?そんなことさえ、思わせるわけである!

いずれにしても、その「とりで」は、果たして、いかにして築かれるのか?それは、まさに「教育」の力によってであることは間違いない!先に生きて(苦悩した?)人間が、次に生きる(苦悩するかもしれない?)人間に、その「とりで」の大切さを、根気よく、「教え育てる」他ないのである!しかし、その「教育」の力は、いかようにも発動され得るのである!それがまた、人間の歴史でもあるのである!要は、「教え育てること」は絶

対に必要なが、そこには「落とし穴？」もある?!また、その連続でもあった?!だから、そのことを、決して忘れてはいけない!そういうことでもあるが、では、改めて、そのことは、どのようにして実現されるのであろうか?その実現は、絶対に不可能であるという人もいるであろうが、やはり、その思いや努力は、何があっても維持し続けていかなければならない!否、そう思えることが重要なのである!

ということで、人間社会は、改めて、これから、このことをどう克服していけばよいのか?その「教育のもつ怖さ」を、どうコントロールすればよいのか?そこが、問われるということになるということであるが、その答えは、ある意味では簡単である?!何故なら、それは、我々の眼前にある、まさに日常的な、各々の生活の中にあるからである?!そこには、善悪、否、すべての価値が横たわっているのである!ただ、残念なことに、多くの表面的な日常には、そうした「とりで」を築く機会や関係がない、見えない(無視、いじめ、差別、孤立?)?!そして、今回のような、大国?による、一方的(身勝手)な攻撃(侵略)!どこに、それがあるといえるのか?!

とは言え、他方では(見ようによっては?)、人の温かさ、優しさ、そして、一致協力して、地域復興や地域再生に向けて汗水を流す人達の姿や思い、それらは、確実に、その「とりで」となっていたり、それに向けての萌芽となっていたりしているのも事実である(それは、直接的な教育プログラムではないが、むしろ、こちらの方が圧倒的に多い!)!そこで、人々は(もちろん子どもも!)多くのことを見聞き、感じ、考え、そして、協力して行動している!よく、「地域コミュニティ」とか言われるが、そこには、大きな「教養育てる力」が埋め込まれているとも言えるのである!

(3) 学校に、「地域学校協働センター」が必要なわけ?!それは、経験し、苦悩した人達だからこそ分かる?!

もちろん、それは、ある意味では、そうせざるを得なかった!そうしなければ、そこに住むみんなが、生きていけなかったからではあるが(往古の地域は、まさにそうであった!)、その大切さは、本当は、今なお(さらには、これからも!)変わらないわけであるが、往々にして(便利さ故に?)、忘れ去られているだけなのである?!そんな中、今回、こうしたことを考えさせる、もう一つの情報を得た!

それは、今年度もまた購読を続け始めた『(大判)社会教育』の5月号の記事、「地域学校協働センターを核とした持続的な地域づくり～3・11から11年目を迎えた原発事故被災地 檜葉町の教育による地域再生の試み～」(執筆:同町教育委員会指導主事/地域学校協働センター長のSさん)である!詳しい紹介はできないが、かの東日本大震災によって、町の存続自体が危ぶまれていた同町(正確には、同町の小学校)に、「地域学校協働センター」が設置され(教育委員会の所管)、記事の表題からも明らかのように、「持続的な地域づくり」、「教育による地域再生の試み」がなされ始めているのである!

もちろん、CSや地域学校協働本部事業の立ち上げは、全国的に進んでいるわけであるが(そのどちらかしかやっていない自治体も多いが!前者が33.3%、後者が54.7%。両者の設置は24.0%。令和3年5月現在)、ここでは、CSと地域学校協働本部事業の同時推進、しかも、それを、小学校に設置する「地域学校協働センター」によって行うということ、そして、それが、単に(小)学校、子ども達への支援ということではなく、「全町避難を余儀なくされた原発事故被災地においては、帰還後の地域コミュニティの再生は喫緊の課題であり、…地域コミュニティの崩壊から復興・再生に至る中での教育の役割や可能性(を考えて)…この度、…多くの方々の知を結集し、新たなアクションとして、…「地域学校協働センター」を設立…被災地ゆえの実践ではあるが、地域コミュニティの再生から、持続的な発展という次のステージを見据えた町の取組…」となったとある!

「多様な地域住民の協働活動や地域活動に対するニーズが、地域や保護者自身が主体となって、そのまま具現化できる。…地域の人・モノ・コトという『材』を、学校教育と社会教育の多様な機会において活用可能となるよう整備し、学校のニーズに基づく地域をテーマとした教育活動も容易に展開できるようにした。…協働センターが協働活動をはじめとするあらゆる地域活動の基盤としてのプラットフォームを提供することによって、教育参画による地域における人間関係の形成、そして地域コミュニティの再生を図った。」ということなのである!震災&原発被害という未曾有の労苦を被った、言い換えれば、それで苦悩した人達、自治体だからこそ分かる取り組みであり、そのしくみづくりであるということである?!

最早、これ以上の説明は不要であろうが、ここには、これからの地域コミュニティ(市町村、県、引いては、国・世界?)のあり方が示唆されているわけであるが(決して誇張ではない!)、まさに、「人づくり(教育)」と「まち/地域(国?)づくり」は循環(往還)しているのである!そこから得られる成果、そして、価値の創造/共有は、まさに、我々人間社会(人類)の宝なのである!余計なことかもしれないが、そうした成果や価値(宝)、そして、人間の命を、いとも簡単に奪い去ることの出来る人間は、そうした、地域コミュニティの良さ・有難さが分からない人間なのかもしれない(あるいは、不幸にも知らなかった?しかし、一応はエリートとされていた?)?!

最後になるが、そうは言っても、人間は変わることができる(しかし、悪くも?)!そこに必要なのが、「知」であり、「智」である?!かの、「知の巨人」と言われた立花隆氏(昨年4月逝去)は、「人間とは何か」を問い続けたということであるが、彼は、「いのち連環体⇄いのち連続体」(「総合知」というものがあり、人間の知(歴史)は、それによってつくられていくとしていたらしい?!まさしく、そうであって欲しい!(つづく)